

## 第13回 生産マイスター検定 1級の結果振り返りと現場の活動から

生産マイスター検定委員 石田 秀夫

### ■ 第13回検定の結果を振り返る

今回の検定では、「品質」に関する問題の得点率が大きく落ち込んだこと（74.4%→61.0%、マイナス13.4ポイント）や、また「安全・環境」に関する問題の得点率が低いことが起因し、前回に比べて合格率が下がりました

さらにブレイクダウンして見てみると、前述にもあるように「品質」に関する設問では「工程能力図の分析」「品質リスクマネジメント構築の留意点」、「コスト」に関する設問では「売上差異分析の計算」「最適生産計画の計算」、「納期・生産管理」に関する設問では「キャッシュコンバージョンサイクル計算」「計画管理と進捗計画」、「安全・環境」に関する設問では「安全文化」「資源生産性」などが得点率の低いジャンルとなっています。

なお、中でも「安全・環境」の得点率は著しく低くなっています。特に安全に関しては職場の基本であることから、日常の安全遵守行動の徹底に加え、知識面も高めていくこと、その知識を部下に正しく伝えることが必要不可欠です。これを機会に、今一度テキストを熟読し理解度を高め、職場の安全を徹底・推進していただきたいと思います。

また、毎回得点率が低いのが、生産管理分野のキャッシュコンバージョンサイクル計算です。毎回申し上げていますが、1級の学習内容は管理職に必要なものであり、対象者は製造課（管理対象）の経営者とその候補者という位置づけです。経営者という視座からも、キャッシュコンバージョンサイクルはぜひ理解してください。

自社・自職場の在庫がどのくらい経営にインパクトがあるのか、一日分の在庫はいくらなのか？そうしたことを把握すると、決して小さくはない数値であることがわかります。簡便的には計算式の1日あたり売上原価に相当しますが、現場で起こっている事象と管理指標を関連づけて考えていくことが、管理者の大きな役割の一つです。

### ■現場の活動から

私がコンサルティングに入っているF社では、サプライチェーンの大改革を行い、当然工場も改革の対象となりました。そこで経営視点から問題となったことは、納期の問題に加え、「リードタイムが長い」「在庫金額が多い」というものでした。

競合他社は売上のサイズが異なりましたが、キャッシュコンバージョンサイクルに指標化し

## （一社）人材開発協会

比較すると、F社のほうが32日も長いことがわかりました。これは、売上原価から換算すると約36億円のキャッシュとなります。もっと簡単に言えば、競合より36億円多い在庫を保有して操業しており、経営観点で言えば、運転資金が必要となり、資産効率を下げていることになるのです。

会社で36億円キャッシュがあつたら、もしくは浮いたら何ができるでしょうか？

運転資金を借りなくても済みますし、現在の低金利を背景に、明るい将来の投資にも活用できるはずです。

上記のとおり、キャッシュコンバージョンサイクルを考える意義はとても大きいのです。管理職として、これを基にして、在庫削減・リードタイム短縮の施策を打っていくことはとても重要なので、繰り返し学習し、ぜひとも習得していただければと思います。

以上